【別紙様式Ⅰ】 令和5年度　学校評価報告書

学校名　森の里中　　学校

校長名　小田中　正格

厚木市教育委員会の基本目標	1　自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成 【挑戦】 2　自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成 【共生】 3　変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成 【創造】

学校教育目標	学校経営の方針
「学び　鍛え　翔く」 ・確かな学力を身につけさせるとともに豊かな心を育てる ・自主・自立の精神を育成するとともによりよい人間関係を築く ・将来への夢を持ち、自己理解の上に立ち、自己実現を促す	1　体験活動の充実 体育的・文化的行事、キャリア教育、総合的な学習、地域社会との交流等を通し、探求的な学習や体験活動を通して様々な学びを体験させ、実体験の中で学ぶ場面を設定していく。 成功体験、失敗体験を繰り返し経験させる中で学び、逞しく生きていく力の素地を身に付けさせる。 2　学習活動の充実 学習に関しては、本校の「弱みの克服」と「強みを伸ばす学習」の展開を重点とする。 ＊指導と評価の一体化 ＊少人数授業・チームティーチング等を引き続き実施し、わかりやすい授業を行う。二極化の克服に取り組む。 ＊基礎・基本的な学習機会を設ける。 ＊総合的な学習など課題設定に自由度が高い学習を通し、生徒の豊かな発想や表現力を発揮させ、意欲的に学習を行わせるとともに、学習の成果を地域に発信する機会を設定する。 ＊いつでも学べる、戻って学びなおせる学習機会の設定。 3　地域との連携の推進 地域の力を借りれば実現できることは積極的に学校運営協議会に働きかけ実現する。 「小規模校の課題」対策と「地域とともにある学校」の活動を両輪として推進する。 ＊学習面に地域の教育力を積極的に活用する。 ＊環境面の整備に地域の力を借りて環境を整える。 ＊防災訓練や地域清掃など生徒の地域活動への参加を促すなど地域に貢献する条件整備を行う。

今年度の重点目標

重点目標「自律・創造・貢献」の心の育成とし、体験活動を軸とした教育活動を展開する。
重点教育活動
(1)キャリア教育の充実　：
体験・経験に基づく価値観の変容と地域学校協働活動の推進
(2)確かな学力の定着と伸長　：
学ぶ意欲の向上、活用能力の育成
(3)道徳教育の充実　　：
人間関係を築く力・社会参画意欲の醸成
(4)心をつなぐ挨拶：
基本的な生活習慣や規範意識の定着と他者との人間関係や社会との関わる力の育成

「コミュニティ・スクール」を次の４点を核に展開する。
(1)キャリア教育推進
(2)安全・環境・防災推進
(3)地域行事ボランティア運営
(4)小規模校の特色推進

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
≪キャリア教育の充実≫ 〇望ましい職業観の育成にとどまらず、社会的自立に向けたキャリア教育の推進 〇多様な価値観に触れ、自己の生き方を見つめ、価値観を変容できる生徒の育成 〇コミュニティ・スクール、地域学校協働活動による校種間や地域が一体となり推進する体制の活用	1・3	・生き方（職業）講話（1年） ・職場体験学習（2年）	・1学年では、『生き方（職業）講話』を機に、職業への理解やキャリア教育への意識を持つきっかけとなった。 ・2学年では、『職場体験学習』の実施にあたり、1年次に行った『職業講話』を発展させた形で、キャリア教育での職業に対する関心を高めて職業について知り、将来の社会的な自立に向けての自己の進路設計について考えることができた。 ・この『生き方（職業）講話』。『職場体験学習』は学校運営協議会とも連携し、地域協働活動として地域の力を活用することができた。 ・生徒自らに生き方を考えさせ、将来を展望した目的意識をもって学校生活を送らせる契機となった。 ・一人ひとりの個性・能力・適性に応じた生き方選択ができる力を育む意識づけとなった。	地域との連携・協働による取り組みを活かした次の項目を充実させる。 ・人間関係を広げつなげる生活体験の充実 ・他者と関わる場面の充実 ・地域社会と共に取り組む活動の充実
≪確かな学力の定着と伸長≫ 〇基礎的・基本的な知識・技能の習得から学ぶ意欲が高まる生徒の育成 〇主体的・対話的で深い学びに向かう生徒の育成 〇朝読書活動による思考力・判断力・表現力の一層の推進 〇生きて働く学力の育成	1・2	T・T、少人数授業 定期テスト対策：補習授業 創作活動： ①美術・音楽分野 ②地域文化作品展示 （CS事業連携） ③生け花教室の開催 （CS事業連携） 朝読書活動	・習熟度別やT.T等細かな配慮のもとに学習効果を高め、基礎・基本の定着を図った。 ・基礎的・基本的な知識の定着をねらいに個に応じた指導（T・T、少人数授業）を実践し、学びの浸透・学習意欲の向上に効果をあげた。 ⇒2年・3年の英語でT・T指導を実施。 ⇒2年・3年の数学で少人数指導を実施。 ⇒学力ｽﾃｯﾌﾟｱｯﾌﾟ支援員を1年英語・数学で活用。 ・毎週月曜日の部活動休養日に学習相談を実施するとともに、定期テスト前に学習会を実施した。 ・①美術・音楽において、単に技術・技能の習得にとどまらず、主体的に取り組み対話的な活動を通し、思考力・判断力・表現力を十分に発揮させ、本校生徒の強みを活かし、成果をあげた。 ・②昨年度に続き、創作活動として、『地域文化作品展示』を行い、情操を養う活動となった。特に今年度は、学校運営協議会とも連携し、2回開催することができた。常設コーナーや定期的に開催できるように進めていきたい。 ・③特別支援学級生徒を対象に、『生け花教室』を開催し、感性豊かな作品の制作活動が行えた。 ・朝読書活動では知的活動を増進し、思考力・判断力・表現力等を育成する観点からも、読書機会の定着など一層の推進が図れた。　⇒学校司書の活用	・本校の特色「創作活動」を活かした「主体的・対話的で深い学び」を推進する。 ・学ぶ意欲の向上に向け、地域の教育力を活用する。 ・昼休みの学習会の周知を広め、1年生対象から学年を拡大していきたい。また、利用者の拡大を進める。さらに、地域の人的資源の確保と活用を生かし、多岐にわたる生徒の要望に応えられる基盤をつくる。

≪道徳教育の充実≫ 〇自己肯定感を基盤に、他者への思いやりの心を育む道徳教育の要となる特別な教科となる道徳への計画的な移行を進める実践の継続と充実 〇他者との人間関係や社会との関わりに目を向けた、学校と家庭や地域社会が共に取り組む体験活動の一層の推進 〇年度内に紹介される外部企画の講演なども柔軟に取り入れ充実を図る。	1・2・3	体験の重視 ・地域社会と共に取組む体験活動 ①地域防災活動 ②環境整備活動 ③地域ボランティア活動 ・『特別の教科　道徳』の指導の工夫 ・『考え、議論する』活動や問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導の工夫	・『地域社会と共に取組む体験活動（地域ボランティア活動）』を実施することができるようになった。 ・書物による机上学習に留まってしまったが、読み物から学び、考え、議論する学習活動を進めたことにより、道徳的価値に関わる意識を高めることができた。 ・道徳教育の要である『特別の教科　道徳』の指導をより効果的に行えるよう、学校と家庭と地域社会が共に取り組む体制や小中連携による実践活動の充実などの体験活動は推進することができなかった。 ・指導のねらいに即して問題解決的な学習や体験的な学習を適切に取り入れるなど指導方法の工夫を年間計画に入れ意識付けを図った。 ⇒特別活動等における多様な実践活動や体験活動も『特別の教科　道徳』に生かした。	人間関係を築く力・社会参画意欲や態度の育成を重点に、体験的な学習を適切に取り入れた指導方法を工夫する。 ＊学習活動の推進と、コミュニティスクールを基盤とした地域連携・学習活動の充実。 ・『環境整備活動』、『地域ボランティア活動』を推進していく。
≪心をつなぐ挨拶≫ 〇学校の原点は、人と人が関わること。人と人が共に創っていく学校の本質をあいさつを通して広げる。	2・3	あいさつ運動 全校生徒によるあいさつ短歌作成 あいさつ横断幕掲揚 生徒会交流会	・あいさつ運動が定着し、あいさつの大切さ、人として基礎を鍛える力を磨くことの意義が定着しつつある。しかし、生徒の活動として実施することが生徒の時間的な負担が大きくなり、あいさつ運動の運営にあり方を見直す必要に迫られている。当面は今後の更なる意識向上を期待したい。 ・日常生活等での基盤となる道徳性や感性を培う指導の充実を明確にした。 ・生きる上で必要な自己有用感を体験的に習得する活動を重視することで、人としての基礎を鍛える契機を得た。 ・基本的な生活習慣や善悪の判断、決まりを守る等、日常生活や学習の基盤となる道徳性や感性を培う意識が芽生えた。 ・生徒会主催で昼休みに全校生徒がレクリェーションで交流する機会をつくり、全校生徒がつながる活動を推進した。	・定着してきた『あいさつ運動』を、生徒の負担がなく実施できるよう、実施方法の見直しをする。 ・生徒主体の生徒会交流会を定着させ、生徒自身の企画力を高めていく。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見
・学校教育活動における学習活動、生徒活動、学校行事、小中連携、地域連携活動等が、日常的に活動できるようになってきた。復活しつつある通常の学校生活のスタイルで教育活動が進められてきたことは評価できる。 ・学校行事をはじめ、授業の様子などでも生き生きとした表情で活動している姿を見ることができ、次年度に向けての期待が高まった。 ・学校運営協議会において、本地区の地域コミュニティ力を基盤に小規模校の魅力化推進を図る教育活動の展開を目標に据え、学校の抱える課題を地域と共に考え、協議を重ねる過程の中で、将来への糸口となる理解・支援体制を継続的に育んでいくことが確認された。 ・「地域の教育力の活用・連携の事業」として、保護者来校機会と時期を合わせた『地域作品展示』の開催、特別支援教室在籍生徒を対象とした『生け花教室』の開催、専門家による『地学教室』を開催することができた。本地区特有の人材を生かした活動が展開できた。次年度以降も、小規模校の特色と地域連携を生かした教育活動が展開できることを期待する。 ・今年度設け始めたような熟議の場面を継続的に設け、「開かれた学校」から「地域とともにある学校」へ推進することを期待する。

今年度の学校経営のまとめ　・　次年度への改善の方針
○学校規模の縮小、学級数・教職員数の減少の状況から、次年度についても、本年度と同様の計画を継続し、学校規模相応の教育活動と地域連携を進めていくことを確認した。また、地域の教育力を生かす連携を無理のない範囲で進めていけるよう、工夫・検討していく。 1　社会性を育む手立て 　・固定化される人間関係を広げつなげる生活体験 　・他者と関わる場面の充実 　　参加型から運営型への意識転換 　　支援される意識から支援する意識への転換 　・感謝の心の育成 2　多様な体験活動を活かす工夫 　地域社会と共に取り組む活動の充実 3 「家庭・学校・地域」三者の役割連携 4　社会に開かれた教育課程の推進 　・9年間の学びを推進する学校づくり【こどもの学びを繋げる小中連携】 　・地域の人的資源を活かした 学校づくり【学校の応援団を増やす】